

松江駅構内の待合室を「縁結びの広場」に改装し、さまざまなイベントを開いていくと、「よきもの」の私にも、いろいろな人と新しい縁ができた。

駅構内で雨の日にかけている「水の都に雨が降る」を作曲されたのは、軽妙な出雲弁で人気の「安来のおじ」だ。出雲人は控えめでおとなしいと聞いていたのに、この人のラジオでの語りは真反対。聞いていて独り笑いを抑えずにいられない。会ってみると、本当に品と落ち着きのある方で、地域活性化の話で深夜まで盛り上がった。なんという縁か、実は国

鉄松江駅の職員だったそう。駅でのイベントに出演を度々お願いするが、「駅長の命令なら従うしかないです」(笑)。

郷土芸能家の荒木八洲雄さんは、御年90に近いお体で、お友達の外の人と一緒にユニークな英語を使いながら、不思議な安来節を元気に踊られる。これが、ドリフのコント並みにおもしろい。私が踊る「どじょうすくい」の正しい腰の使い方は荒木さん仕込みだ。地元の若手音楽アーティストたちとも知り合い、アコースティック・

語り合いアイデア次々と

「人」と「アイデア」

縁結びの広場の「安来節」のショー。荒木八洲雄さん(右から2人目)と共に4月27日、松江市朝日町、J R松江駅



コンサートをしてもらった。彼らの松江に対する思い入れは本当に強い。「駅で演奏することを目標に、いろんな若手が頑張っている」と聞き、私

も胸が熱くなった。行政や企業に勤める若手の方でも随分、ご縁ができた。深夜まで語り合うと、アイデアが次々と出る。

「ベニスみたいに、堀川遊覧船がバスみたいに使えたら、通勤通学の人

と観光客が触れ合えるんじゃないか」「アニメの『鷹の爪団』の『吉田くん』が駅から松江城まで案内してくれたらウケる」「駅からエコな乗り物で自由に観光できたら東京でも話題になるぞ」松江には、観光資源にとどまらず、こんなにたくさんさんの「人」という引き出しがある。なのに、街のイベントの出し物は、出演者を含め、どうして「去年と同じ」企画ばかりが並ぶのか。

東京にはスカイツリーが建ち、大阪にはグランフロントができたというのに、松江は変わらないどころか、シャッターや空き家が目立つという。若者同士で愚痴をこぼしていたって、始まらない。だったら、自分から、街に出たいこう、そう考えた。(J R松江駅長・内山興)

第2、4月曜掲載

